

神幸祭

神崎 飯土井神社
金田 稻荷神社

2週連続で各地区を祭り一色に染めた金田、神崎の秋祭り。収穫を控えた稲穂がそよぐ風景に、金色の山笠10基が姿を現しました。鳥居前では鬼が暴れ、巫女や獅子、稚児が華やかな舞を披露。人々の身も心も熱くさせた一大イベントを、写真とともに振り返ります。

掛け声合わせ心一つに

10月8日から2日間、神崎地区で「飯土井神社神幸祭」が行われました。4地区で山笠が建てられ、施設などを訪問。堂々とした練り回しを披露して人々を魅了しました。

神崎地区での山笠奉納は昭和35年に「神崎二」が始まり、その後4地区に定着しましたが、年々昇き手が減ってきている現状です。山笠の重さは数トン。上り坂などでは人数をカバーするように地区を越えて助け合う様子が見られ、終始和やかな雰囲気です。2年に一度の祭りを謳歌しました。

伝統の舞で際立つ祭り

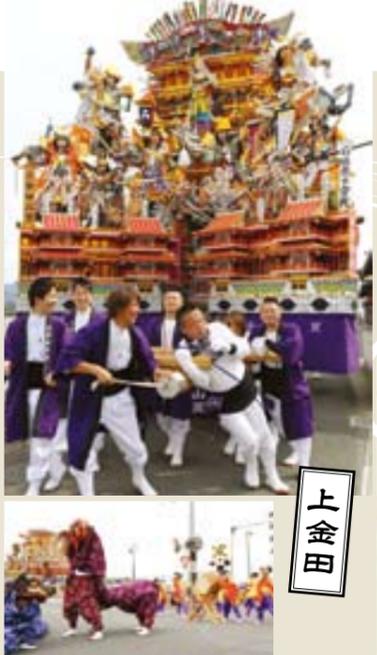
10月15日から2日間行われた金田地区の「稲荷神社神幸祭」。神社の例大祭にあわせ、無病息災、五穀豊穡を願う古くから行われてきた祭礼です。

天候に恵まれた初日午後、各地区で村回りを終えた6基の山笠とそろいの法被に身を包んだ昇き手たちが鳥居前に集結。勇壮な山笠が見守る中、境内では2人の巫女による舞に続き、金田一区の氏子によって継承されている町指定民族文化財の「獅子楽」が、稚児の舞とともに奉納されました。その後、ご神体を乗せた神輿や神社の宮司を筆頭に、総勢200人以上が長い列をなして御旅所まで「お下り」。翌日は同様に「お上り」が執り行われました。

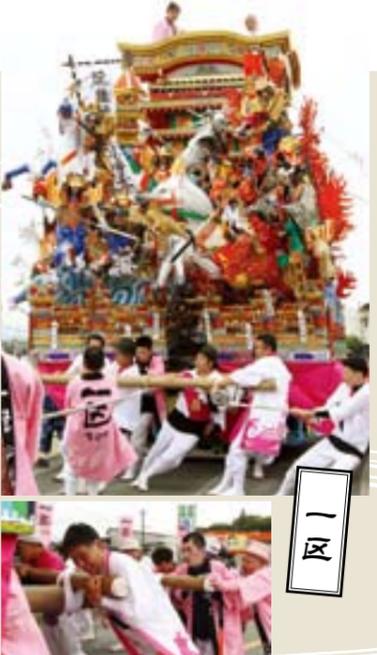
約1千2百年もの歴史ある稲荷神社。その祭礼は本来の姿を失うことなく、大切に伝統が守り受け継がれています。



町部



上金田



一区



神崎二



神崎一



平原



六区



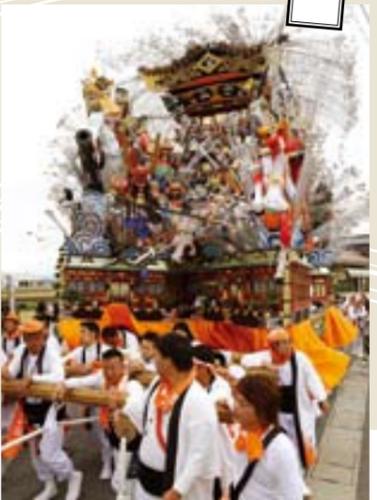
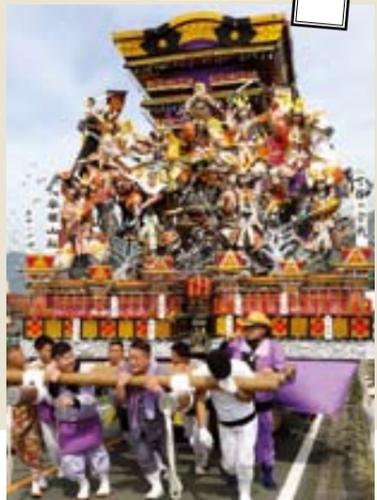
宝見



神崎四



神崎三



山笠 競演会

祭りの夜を華麗に彩った電飾の山笠。
昇き手と観客の熱気が最高潮に達した瞬間です。

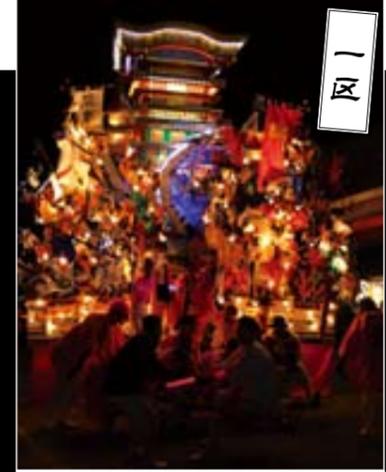
声を枯らし迫力の競演

まばゆい光をまとった9基の山笠が金田駅裏イベントパークに集結。10月15日から2日間にわたり「第15回金田・神崎山笠競演会」が盛大に開催され、各山笠が高速の練り回しを披露しました。昇き手、観客の中には、この日に合わせて遠くから帰郷した人もいたほど。2日目は雨天にもかかわらず、2日間の来場者数は1万人を超えました。

華やかで勇壮な山笠に目がいまがちな祭りですが、その成功は人々の思いがあつてこそ。連日深夜まで続いた山笠の組み立て、余念のない囃子の練習、それを支えた地区の老人会や女性部による炊き出し…。祭りをとおして多くの人が心を一つにし、地域の結束力を高めながら伝統と受け継がれています。



一区



表は真田幸村が徳川家康に挑む決戦を模した「大阪城炎上」。勇壮な人形に加え、有志による自作飾りが施されました。

上金田



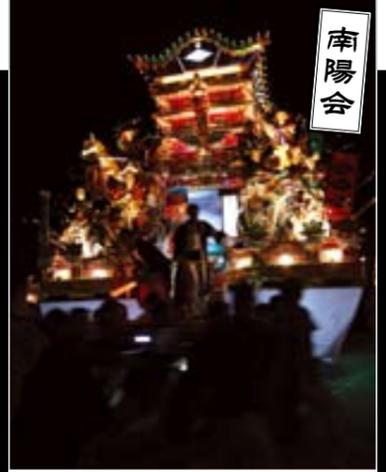
等間隔に並ぶようにつけられた電飾と大きな開き、細かな絵柄等にこだわった上金田山笠。表の外題は「石垣原の合戦」。

町部



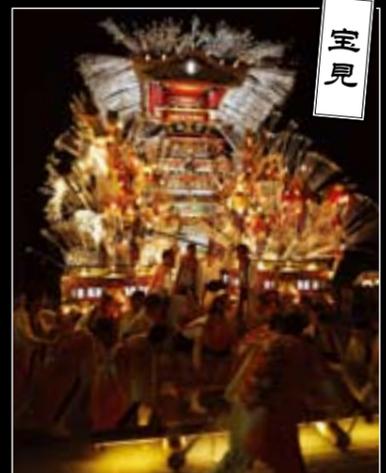
表は「壇ノ浦の合戦」。中央には源義経の八艘飛び、右側上部は平知盛が碇を担いで海に沈む様子が表現されています。

南陽会



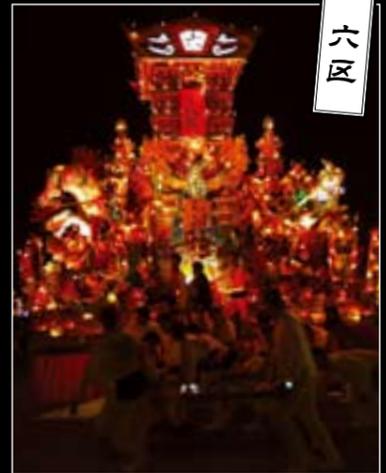
6回目のお披露目となった南陽会山笠。表の外題は「長篠の戦い」で、愛好会メンバーが手間暇かけて破風を作成しました。

宝見



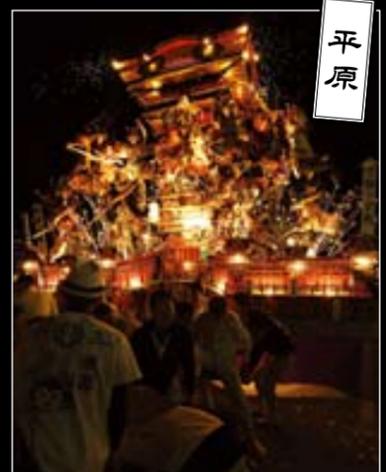
人形や飾りなど一年間かけて製作された宝見山笠。「古き良き時代の山笠」をテーマに、多く取り付けられたボンカンが特徴。

六区



表は織田信長と足利義昭の戦いを表した「上京焼き討ち二条城攻囲」。中央では鳳凰が羽を広げ、竜や馬は白煙を吐きます。

平原



表の外題は「一ノ谷の合戦」、見送りは「忠臣蔵」。青年団が力を注ぎ、試行錯誤を繰り返して仕上げた自慢の山笠です。

神崎二



表は「川中島の合戦」。他の山笠がライトアップされる中、電球をあえて隠し、間接照明として飾り付けてられています。

垣田



神崎四山笠にさらに高さや迫力が足され「垣田山笠会」として参加。表の外題は「賤ヶ岳の合戦」、見送りは「大阪夏の陣」。

浮かび上がる
合戦絵巻

福智町公式 Facebook



→今年の山笠競演会の様子を動画でもご覧いただけます。